

北中学校だより

楓

(かえて)

令和8年1月14日(水)

第52号 東金市立北中学校

〒283-0803 東金市日吉台 1-20

TEL 0475-50-2288

発行者：校長 久我 和廣

学校教育目標

創 【未来を拓く】

～輝く瞳、笑顔とあいさつ、光る汗～
めざす生徒像

「考え、行動し、夢をもって成長する」生徒

- (1) 学び合い、高め合う生徒⇒輝く瞳・・・(知)
- (2) 認め合う、心豊かな生徒⇒笑顔とあいさつ・・・(徳)
- (3) 心身共に健康な、たくましい生徒⇒光る汗・・・(体)

校訓 自分らしさを光らせて

めざす学校像

- (1) 学力向上に努める学校
- (2) あいさつと歌声が響く学校
- (3) 安全で安心してすごせる学校
- (4) 地域とともに歩み、信頼される学校



「えらい人」

ちょっと難しい質問をします。君はどういう人を「えらい人」だと思っていますか？勉強ができる人でしょうか。会社に入って出世する人でしょうか。才能があつて有名になる人でしょうか。それとも、何かすごい発明をして歴史に名を残す人でしょうか。確かに、そういう人たちは、「えらい人」にちがいない。でもそれは、偏差値の高い学校に入ったから、出世したから、有名になったから、歴史に名を残したから「えらい」のではありません。

たとえば、世界で活躍する有名なサッカー選手。彼は決して有名になるためにサッカーをやっているのではありません。もっとサッカーがうまくなりたい・・・その思いが誰よりも強く、その結果、たまたま世界で活躍する有名な選手になったのです。飛行機を発明したライト兄弟は、決して、歴史に名を残そうとして飛行機の発明に成功したのではありません。むしろ、そう思っていたら成功しなかったかもしれません。彼らは、空をとんでみたい！という思いが誰よりも強かったから、飛行機を発明できたのです。

つまり、ある意味、‘結果’はそれほど重要ではないのです。成功した人が「えらい人」で、失敗した人とは「えらい人」ではないということです。問題は、あることを達成しようとする‘思い’、いつてみれば‘熱’みたいなもので、その熱が人一倍強い人が、「えらい人」といえるのだと思います。熱がしっかり強ければ、行動は自然についてくるものです。

勉強や受験に関しても、同じ事がいえます。試験でいい点をとること、大学に合格することは、もちろん素敵なことです。でも、もっと大切なことは、今度の試験では前回よりももっといい点を取りたい、あの大学に絶対入りたい、という思いをどれだけ強く抱き、どれだけ具体的に行動したか、ということです。

たとえば、ある大学を受験した二人、A君とB君がいたとします。A君にとってその大学は第一志望で、必死にがんばったが結果は不合格。一方、B君にとってその大学はすべりどめにすぎず、結果はラクラク合格。えらいのはどちらか？結局は合格したB君が「えらい」のではないかと考えるのは思いちがいです。

本当の意味で「えらくなる」ということは、いい点数をとることでも、出世することでも、輝かしい成功事例を積み上げることでもありません。よりたくさんの人に尊敬され愛される、そういう「素敵な大人」になることです。そして、そういう素敵な大人とはたいてい、若い頃から何かに対する‘熱’を誰よりも強く持ち続けている人なのです。

勉強でも、スポーツでも、趣味でも、ジャンルは何でもよいから、10代のとき、そこにどれだけ熱くなることができるか。今しかできないことを、今どこまでやれるか。君の場合は、‘どうだろう。’

チャート式基礎からの数学1・A(平成17年版 数研出版)より抜粋

上記の文章は、高等学校の数学の副教材でよく使用されるチャート式(白色・黄色・青色・赤色があります。難易度によって色分け)に掲載されていた文書です。

今の自分を振り返ってみるとどうでしょうか？一つのことを熱中して取り組んでいる人は、日々充実していると思います。自分のやりたいこと等が見つからない人もいますがその中で試行錯誤をくり返しながら、ぜひ中学時代にしかできないことを挑戦してみましょう。

